

あいざわクリニック、青森県立中央病院、国保黒石病院、三沢市立三沢病院、JCHO秋田病院、北秋田市民病院、公立七戸病院、健生病院の患者の皆様へ

当講座では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

1. 研究課題名	2型糖尿病の有無による乳癌関連遺伝子のメチル化状態の解析およびそれを標的とした新規治療法の確立		
2. 対象患者	あいざわクリニック、青森県立中央病院、国保黒石病院、三沢市立三沢病院、JCHO秋田病院、北秋田市民病院、公立七戸病院、健生病院において過去に乳癌の診断あるいは手術治療を受けた患者さんを対象として		
3. 対象となる期間	平成24年 6月 ～ 平成29年 6月		
4. 実施診療科等	弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座		
5. 研究責任者	氏名	工藤和洋	所属 弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座
6. 研究の意義	乳癌は近年非常に増加しており、予後を少しでも改善できるような新規治療法の開発が求められています。一方で2型糖尿病も増加しています。今回我々は、2型糖尿病による乳癌の遺伝子異常に対する影響について注目しました。癌の発癌や進展に関わる遺伝子異常の一つとして、DNA過剰メチル化という現象が知られていますが、このDNA過剰メチル化と2型糖尿病との関連性はいまだ報告されていません。このような遺伝子異常と2型糖尿病による乳癌発症の関係性が証明された場合、脱メチル化剤という薬により新しい治療応用の可能性が生じます。脱メチル化剤は、日本でもすでに骨髄異形成症候群等の血液疾患の治療に取り入れられており、これまでの治療と組み合わせることで、更なる予後改善効果が期待できると考えています。		
7. 研究の目的	乳癌発症進展における遺伝子異常に着目し、切除乳癌標本において2型糖尿病既往の有無による遺伝子異常への影響を検討し、その制御による新規治療法の確立を目指すものです。		
8. 研究の方法 (使用する資料等)	1. 手術時に摘出された組織をホルマリン固定し、切り出し後にパラフィン包埋した組織ブロックを使用します。 2. 組織標本を顕微鏡にて観察し、腫瘍部、腫瘍組織近傍正常部を同定します。 3. パラフィン包埋された組織ブロックを薄切し、DNA抽出キットを用いてDNAを抽出、適切な処理後にPCR、電気泳動にてデータを収集します。		
9. 個人情報の保護	課題経過中及び終了後において、調査結果については、研究目的以外に使用することなく、対象者の個人情報は外部に漏らすことはありません。本研究で得られた個人情報は、データの統計的分析にのみ使用され、学会発表においても個人を特定できる情報を削除し発表します。		
10. 利益相反に関する状況	本研究における利益相反は一切ございません。		
11. 問い合わせ先	弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座 工藤和洋 (E-mail) spkk-spkk@umin.ac.jp		
	電話	0172-39-5025	FAX 0172-39-5026